

令和 5 年度 墨田区立二葉小学校 経営報告書

校長名 山崎 隆

学 校 目 標	・ 自分でつくる丈夫な体 ・ 自分で取り組む確かな学習 ・ 自分で深める温かく強い心 ・ みんなで築く楽しい生活
目 指 す 学 校 像	教育目標が児童の日々の生活に目に見える姿として表れている学校
目 指 す 子 供 像	教育目標が日々の学校生活に目に見える姿として表れている児童
目 指 す 教 師 像	教育への使命感と責任のもと、協働と研鑽で充実した教育を推進する教師集団

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	「学びに向かう力」を発揮させる授業を実施する	4	4	○年 2 回の授業観察では、どの学級も「学びに向かう力」を発揮させるために学年の発達段階に応じた手立てをとって授業に臨んでいた。児童が主体的に学習に取り組むことができており、1 月に実施した学力調査では約 9 割の児童が目標値を達成した。	A	A
	すみだ GIGA スクール構想に即してジグソー学習、調べ学習を実施する	4	3	○ICTリーダーやGIGAスクール支援員を中心にタブレット端末を活用した校内研修を実施し、各教科でジグソー学習を展開し、児童の学びが深まっている。	A	A
	校内委員会の充実を図り、個別の指導計画に基づき、組織的かつ計画的な支援を行う	4	3	○毎月 1 回校内委員会ではまなびの先生にも入ってもらうことでより多角的な視点で児童への支援が考えられた。臨床心理士を招いた校内研修会では、個別に配慮が必要な児童への支援方法を教職員で理解することができた。	B	A
	学級担任と専科が連携した支援を行う	4	4	○5・6 年生は専科教員が副担任なることで児童理解につながり、より個に応じた指導が充実した。次年度は全学年に副担任を配置していく予定である。	A	A
	カリキュラム・マネジメントに基づき、学習発表会を実施し、学習の成果を発表する	4	4	○全学年が地域、保護者、外部人材を招いた学習を教科横断的に実施し、カリキュラム・マネジメントを推進している。各教科の学習を関連づけながら学びを深め、学習発表会で成果を発表する。	A	A
	交換授業、教科担任制を中心に、授業力・専門性の向上を図る	4	4	○1～4 年生は交換授業を 2 回以上実施している。同じ授業を複数回行うことで教員の専門性は向上している。指導教諭の授業参観で学んできたことを教員へOJT研修として実施することで、授業力向上にもつながっている。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・教科担任制（4 年目）を更に推進させ、児童の学力向上につなげてほしい。				

様式 4

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況		自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標		
生活指導等	いじめ、不登校の予防・解決に向けて組織的な取組を行う	3	2	B	B
	いじめ防止授業、いじめ対応研修により、組織的な取組を行う	4	3	A	A
	全学級で、児童が進んで考える道徳授業を確実に実施する	4	3	A	A
	人権教育プログラム等を活用した人権教育を推進する	4	3	B	A
	安全教育、安全指導を計画的に実施する	4	3	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・不登校対策への取組を更に推進させてほしい。			

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況		自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標		
学校の管理運営	各教員が学校経営方針に基づいた目標管理を行う	4	3	A	A
	教育目標の目指す児童像を明確にして学校経営を行う	4	4	A	A
	児童が、毎日安全で元気に生活ができる学校経営を進める	4	4	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・工事期間中の行事や体育の授業などを工夫して行っていってほしい。			

様式 4

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	教育活動の意図的・計画的・積極的な発信や公開を行う	4	3	○4月の学校便りで本校の教育活動の重点目標を発信している。また、運動会や学習発表会等の行事も手紙やホームページなどで発信している。学校連絡メールシステム「COCO」による配信を推進し、家庭が学校の教育活動を把握できるようにする。学校公開（年2回）では、人数や時間の制限をなくしたことで多くの保護者が来校してくれた。ホームページの更新を今年度以上に増やし、学校の見える化を目指していく。	B	A
	保護者・地域の声を生かした学校経営を行う	4	3	○毎月のPTA役員会では、学校・PTAの課題を共有し、解決に向けた前向きな話し合いをすることができた。年3回の学校運営連絡協議会では、体育館の改修・改築工事を踏まえた教育活動に一定以上の理解を得ることができた。	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・学校連絡メールシステムの活用を一層図ってほしい。				

2 令和5年度学校評価のまとめ

○評価結果と屋内運動場棟増改築工事の予定を踏まえて、学校の教育目標実現のためにカリキュラム・マネジメントを生かした計画を充実させ、令和6年度の教育課程を編成し実施していく。

◇更なる学力向上のために、次の取組を充実させる。

- ・教科担任制による指導体制の充実（東京都教科担任制等推進校4年次）を図る。

教科担任制や交換授業による教員の専門性向上、学習指導力向上

時間割編成の工夫による安定した指導体制での実施

両国中の体育館、校庭、第二校庭の計画的な運用

- ・「カリキュラム・マネジメントに基づいた教科横断的な指導の工夫」をテーマとした校内研究の充実を図る。

◇非認知的能力の育成

- ・一人1台端末等のICT機器の一層の活用を図る学習指導の充実を図る。

個別最適な学び、協働的な学びへの効果的な活用

情報モラル教育の充実

◇児童相互の望ましい人間関係を作ることやいじめ・不登校等の課題の解決を図るために、次の取組を充実させる。

- ・学年教員や教科担任制による副担任との連携を中心とした組織的な学年・学級経営を進め、多角的・多面的な児童理解を図る。

- ・「チーム学校」としてスクールカウンセラーや支援員等との連携を一層推進し、児童の自尊感情、自己有用感を高める取組を充実させる。

- ・情報発信を工夫し、家庭や地域、関係諸機関との連携を一層強めて児童の心身ともに健やかな成長を目指す。

- ・不登校対策としてすみだバーチャルサポートルームの活用を推進しさせていく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立二葉小学校 校長 山崎 隆 公印